



インフォメーション・コーナー

会 告

○2023年度（第72回）農業農村工学会大会講演会の開催（第1報）  2023年8月29日～9月1日開催	64
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	64
○2022年度からCPD利用料等を改定しました	65
○CPD通信教育の問題と解答をホームページに掲載	65
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	65
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	66
○学会誌での著者の「紹介」を簡略化します	66
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	66
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局	67
○第59回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第1報）  申込締切 2023年1月23日	68
農業農村工学会論文集 内容紹介	70
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	71
学会記事	72

第91巻第1号予定

展望：PAWEESを必要とした背景と今後への期待：進藤惣治

小特集：PAWEES 20周年の歩みと今後の展開

報文：PWE誌およびPAWEES研究会における省資源節水稲作研究の進展：山路永司

報文：「国際水田・水環境工学会（PAWEES）」の活動の歩みと今後の展開：中村公人ほか

報文：PWE（Paddy and Water Environment）誌の最近の動向と今後の展望：増本隆夫ほか

特別寄稿：溝口 勝

技術リポート

北海道支部：作物モニタリングにおけるUAV空撮画像3次元解析ソフトの比較：辻 修ほか

東北支部：プレキャスト製品を用いたため池洪水吐改修工法：加藤佳介ほか

関東支部：栃木県の防災重点農業用ため池における防災対策の取組み：阿久津洋貴

京都支部：ため池改修工事着工時の落水事例：長谷暢也

中国四国支部：遮水シートと反転工法（ARISライナー工法）の施工事例：妹尾克士

九州沖縄支部：南薩地区におけるパイプライン漏水事故の傾向と要因：澤 忠

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2022年11月30日、12月1日	京都支部	第79回研究発表会 ⓑ	—	神戸市	90巻4、6号
2022年12月1～31日	中国四国支部	第77回支部講演会・第46回地方講習会	—	Web形態	90巻9、10号
2022年12月2、3日	水文・水環境研究部会	第35回シンポジウム	—	つくば市	90巻9、10号
2023年2月3日	材料施工研究部会	第59回シンポジウム ⓑ	ICT施工の現状と今後の展開	Web形態	90巻12号
2023年8月29日～9月1日	大会運営委員会	2023年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	愛媛県	90巻12号

2023年度（第72回）農業農村工学会大会講演会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2023年度（第72回）農業農村工学会大会講演会は、愛媛大学城北キャンパスにおいて開催を予定しています。大会講演会への投稿、参加申込みはWebからになります。投稿要領、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. 開催期日 2023年8月29日（火）～9月1日（金）

講演会：2023年8月29日（火）～31日（木）

交流会：2023年8月29日（火）

現地研修会：2023年9月1日（金）

2. 会場

開会式、学会賞授与式、講演会、交流会：愛媛大学城北キャンパス

3. 運営委員長

愛媛大学大学院農学研究科 治多伸介

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2022年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店
 普通預金 No.1569058
 口座名 (社)農業農村工学会学術基金
 郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金
公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。

2022 年度から CPD 利用料等を改定しました

2022 年 4 月 1 日より CPD 利用料等を改定しました。
 現行の CPD 利用料等は、課税対象となった 2011 年度に CPD 利用者の負担増を避けるために内税扱いにして実質的に本体価格を減額し、以降その価格を維持してきましたが、2022 年度から税抜価格を当初の価格に再設定しました。また、CPD 取得証明書の発行費用を 1,500 円（税別）に増額する一方で、CPD 法人登録者（D 区分）の利用料を 15,000 円/件（税別）に減額しました。改定内容は下記のとおりです。なお、1

機関当たり新たに 100 人以上がまとめて登録する場合の登録料免除や、30 人以上が所属する機関において利用料を一括納入する場合の割引については、それらの制度を維持しています。
 見込まれる収入の増分は、喫緊の課題であるセキュリティの一層の強化や利用者サービスの向上を図るためのシステム改造費に充当する計画です。
 ご登録の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

	2021 年度まで	2022 年度から
1. CPD 登録料	953 円 (1,048 円)	1,000 円 (1,100 円)
2. CPD 年間利用料 (個人)		
・ 学会員	2,381 円 (2,619 円)	2,500 円 (2,750 円)
・ 非学会員	3,810 円 (4,191 円)	4,000 円 (4,400 円)
3. CPD 年間利用料 (法人)		
・ A 区分	476,191 円 (523,810 円)	500,000 円 (550,000 円)
・ B 区分	285,715 円 (314,286 円)	300,000 円 (330,000 円)
・ C 区分	95,239 円 (104,762 円)	100,000 円 (110,000 円)
・ D 区分 (1 件)	28,572 円 (31,429 円)	15,000 円 (16,500 円)
4. CPD 取得証明書	953 円 (1,048 円)	1,500 円 (1,650 円)
5. 緊急処理費用	9,524 円 (10,476 円)	10,000 円 (11,000 円)

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。
 2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。
 なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

- 1. 参加資格**
 農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者
- 2. 出題内容と出題方法**
 3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題
- 3. 解答方法**
 Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）
- 4. 解答期限**
 問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌12号掲載の問題は1月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録
(正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougajiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

学会誌での著者の「紹介」を簡略化します

学会誌では、報文(小特集報文、自主投稿報文)、レポート、技術レポートの著者について、原稿末に「紹介」を掲載しています。「紹介」には顔写真、簡単な略歴、会員区分、CPD 個人登録の有無について記載していますが、個人情報保護の観点から、これらの情報すべてを一律に公刊図書に掲載することは望ましいものではありません。また、著者が多数の場合、「紹介」に多くのスペースが割かれることから、本文のスペースを十分確保できなくなる問題がありました。

このため、「紹介」の取扱いについて、学会誌企画・編集委

員会で検討した結果、顔写真、略歴を非掲載とし、会員種別、CPD 個人登録の有無のみを記載することといたしました。実施時期は第 91 巻第 1 号(2023 年 1 月号)からとし、自主投稿報文につきましては 2023 年 1 月の投稿分からといたします。

併せて原稿執筆の手引き(テンプレート)の内容を充実させるとともに、学会誌で慣例的に用いられている用字用語表記についてとりまとめ、それぞれ農業農村工学会ホームページに順次掲載いたしますので、投稿時にご参照ください。

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨(A4判、1,500 字程度、様式自由)を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 91 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4判 1,500 字程度)
第 91 巻第 1 号 PAWEES 20 周年の歩みと今後の展開 (仮)	公募なし
2 号 乾燥地における持続可能な農業に向けて (仮)	終了
3 号 農業農村工学技術者の育成における CPD と JABEE の役割 (仮)	公募なし
4 号 大規模災害の発生時に農業農村工学分野はどう貢献したのか (仮)	終了
5 号 気候変動に対応したアジアモンスーン地域における水田灌漑の展開方向 (仮)	終了
6 号 データ駆動型社会の実現に向け加速する ICT・解析技術 (仮)	12 月 10 日
7 号 大会特集号 (中国四国支部)	公募なし
8 号 —	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)
〒 105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp
※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第 91 巻第 6 号小特集テーマ「データ駆動型社会の実現に向け加速する ICT・解析技術」(仮)

第 6 期科学技術・イノベーション基本計画 (令和 3~7 年度) において、わが国の未来の社会像 Society 5.0 を具体化させることが掲げられ、データ駆動型社会の実現に向け社会全体で ICT (情報通信技術) や解析技術の開発、利活用とその技術の浸透が推進されています。

農林水産分野においては、食料・農業・農村基本計画 (令和 2 年 3 月) に、施策推進の基本的な視点として「スマート農業の加速化と農業のデジタルトランスフォーメーションの推進」が盛り込まれました。農業農村工学においても、基幹的農業従事者の減少・高齢化、中山間地の農地荒廃、農業水利施設の老朽化、自然災害の頻発化・激甚化など、わが国の農業・農村が抱えるさまざまな課題に対して ICT 利活用による解決が試みられています。また、農業農村整備に関する技術開発計画 (令

和 3~7 年度) では、重点取組み事項として①スマート農業推進のための基盤整備、②技術開発を促進するための仕組みづくり、③幅広い技術者および研究者の確保と育成が挙げられ、将来を見据えた持続的な ICT 利活用の展開が予想されます。

ICT や関連するデータ解析技術の発展は目覚ましく、農業農村工学分野においても関連技術の研究開発から実用化、事業化、社会実装とさまざまな段階にあると考えられます。また、農業農村工学が向き合う課題も社会情勢と連動して複雑化し、ICT・解析技術の利活用の背景も多様化しています。そこで本小特集では、「データ駆動型社会の実現に向け加速する ICT・解析技術」と題し、ICT 利活用に関する研究成果や直面する課題、AI やビッグデータの活用などの解析技術、将来展望などに係る報文を広く募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2022 年 7 月から 2024 年 6 月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称 : PAWE) を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021 年のインパクトファクター (IF) は 1.554

と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)

- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界 11 カ国から Editor（20 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

2022 年 7 月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Editors 13 カ国から 20 名

・ Editorial Advisors 30 名

・ Chief Managing Editor

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk

National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

編集事務局（2024 年 6 月まで台湾担当）

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,
ROC

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年 4 回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込みください。

なお，オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局（suido@jsidre.or.jp）まで会員番号を明記の上，お申し込みください。

第 59 回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第 1 報）

技術者継続教育認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ ICT 施工の現状と今後の展開
3. 期日 令和 5 年 2 月 3 日（金）13：00～17：00
4. 会場 オンライン方式（Zoom 利用）により開催します。
5. シンポジウムプログラム
開会挨拶

材料施工研究部会研究奨励賞授与式

<基調講演> 「農業農村整備における情報化施工及び 3 次元データ活用」

<一般講演>

- (1) 中層および深層混合処理工法の ICT 施工と可視化技術
- (2) 頭首工における既存固定堰改修での ICT 活用事例

(3) 機械化施工「左官アシスト」による表面被覆技術の開発と今後の展開

(4) AI 制御による不整地運搬車の自動走行技術に関する研究 (仮)

閉会挨拶

6. 現地研修会 今回は実施しません。

7. 参加費

参加費無料, テキスト (「材料と施工」第 60 号) 代: 2,500 円
令和 5 年 1 月 23 日 (月) までに「9. 振込先」にお振込み
ください。

※ご依頼人名 (振込者名) は参加者のお名前をお願いいたします。

8. 申込み

以下の項目をご記入の上, E-mail にてお申し込みください。
その際, 標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加
申込」と明記してください。

①参加者氏名, ②所属機関名, ③所属機関等 (テキスト送付先) 住所, ④ TEL, E-mail アドレス, ⑤テキスト代の振込日, ⑥ CPD 番号 (登録希望の方)

9. 振込先

振込口座: 北國銀行粟田支店 普通 39965

振込口座名義: 材料施工研究部会 代表 森 丈久

※振込手数料は参加者にてご負担いただきますよう, よろしく
お願いいたします。

10. 申込締切 令和 5 年 1 月 23 日 (月)

11. 申込・問合せ先

〒 921-8836 石川県野々市市末松 1-308

石川県立大学環境科学科

申込受付担当: 森 丈久

TEL: 076-227-7486

E-mail: moritake@ishikawa-pu.ac.jp

12. その他 詳細は, 学会誌次号に掲載予定です。

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は, より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため, 平成 27 年 4 月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE 上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により, 平均 4 カ月で審査終了!

→審査終了後, 順次 J-STAGE に掲載!

→論文集購読者は, オンライン登載直後より閲覧可能,

冊子体も配布, 掲載料も低価格!

→投稿資格を緩和, 非会員も条件により投稿可能に!